

聖典

第82号



◆「一味同心」～新たな時代に向かって～

会長 神作紹道…………… 2

◆令和2年度会員大会 報告…………… 3

◆「東日本大震災」

慰霊行脚報告…………… 4～6

◆奈良中宮寺御門跡

閑上慰霊法要帯同…………… 6

◆サンタピアップみやぎ活動報告 …… 7

◆年次総会報告・事務局だより …… 8



「一味同心」～新たな時代に向かって～

第26期会長 清凉寺 住職 神作 紹道

宮曹青第二十六期最後のご挨拶を述べさせていただきますにあたり、まず、この二年間に様々な形でご協力を頂戴いたしました方々に心から感謝を申し上げます。

今期は「一味同心」新たな時代に向かって「とスローガンを掲げ出発したわけですが、会長着任間もない令和元年当初、拙僧の皮算用では、2020オリンピック開催で日本は意気揚々活気づいている姿を想像しておりました。宮曹青も令和という新時代にふさわしい活動をと模索していたところにコロナショックが起こったわけでございます。想像していた未来とは全く別の方向でありましたが、まさしくスローガン通りに新たな時代に向かっての対策を考えていかななくてはならなくなつたわけです。

世の中の多くがそうであるように、青年会事業も対面での活動が基本でございます。しかしながら、コロナウィルスは、私たちに、会うな集うな話すな、とすべての活動を禁じると言ってきたようなものでした。ですから、令和二年度は六月まで集まることはありませんでした。その後、時間が経つにつれて、リモートでの活動が世間で一般的となつたころ、宮曹青もリモートでの会議やSNSを活用して、会務や今後のことをようやく全体で議論し決定できるようになったと記憶し

ています。

コロナ禍で私が考えていたことは、何もできない状況であるから何もしないということではなく、何ができるか、どうしたらできるかということを探求していくことが肝要だということでした。

サンタピアップカンボジア教育支援の基礎活動となるバザーについては、今後の学校建設事業に影響が出るため、開催時期を当初予定より延期するなどして調整を続けましたが、会員や開催地域の方々の健康と心情を考えると令和二年度内の開催を中止せざるを得ない状況でした。（令和元年度は東松島大塩地区にて開催）

令和二年度の会員大会（令和三年二月開催）は東北福祉大学学長の千葉公慈老師に講師をお引き受けいただき、オンラインでの講演会を開催することができました。また、同時期に、宮曹青会員皆様のご健康とご多幸、さらには疫病の早期収束を願い、泉区洞雲寺さまを会場に大般若祈禱会を二十六期役員にて務めさせていただき、録画したものを宮曹青YOUTUBEチャンネルにて限定公開するという新しい試みもおこないました。

このようにできたことできなかったこと両面ありますが、何ができるかを模索し、これまでとは違う活動ができたことは宮曹青に

とつての財産になるのではなからうかと考えます。よく言われることですが、コロナ禍や災害など、マイナスの出来事をプラスの事象に変換していくような智慧を育むことが皆にとつて、青年会にとつても大切なのではないでしょうか。しかし、災害のない安寧な世を願うばかりです。

最後に今期の自己を振り返ってみますれば、配慮が足りず至らぬ点多々あったと反省しておりますが、皆様のご助力により務めてこられました。各委員長、副委員長の方々におかれましては、初年度のみの活動がほとんどとなりましたが、委員会をまとめていただき、二年分の行事を凝縮したような内容の濃い思い出に残る活動を作り上げていただいたことに感謝申し上げます。役員事務局の皆様におかれましては段取りよく会務運営に尽力いただきましたこと感謝申し上げます。正賛会員の皆様は勿論のこと、特別会員の皆様には業務御多端の中、当会の活動にご参加いただきましたこと感謝申し上げます。

結びにあたり、当会の更なる発展と、会員の皆様のご健勝を祈念致しますとともに、今後宮曹青に対しまして変わらぬご協力をお願い申し上げます。

合掌

令和二年度会員大会 報告

新型コロナウイルスの影響により、本年度の会員大会をインターネットサード利用による形式にて開催いたしました。

令和三年二月二十四日開催のオンライン講演会ではZoomミーティング（Zoomビデオコミュニケーションズ社）を活用し、TV等でも御活躍中の東北福祉大学学長千葉公慈老師を講師にお迎えし、「二人で行くなかれーコロナ時代

と仏教」と題したご講演をいただきました。

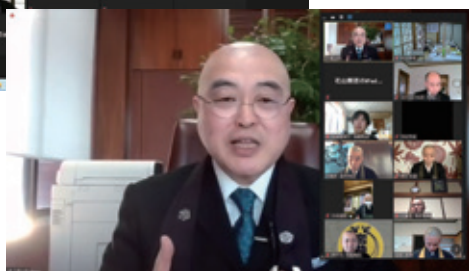
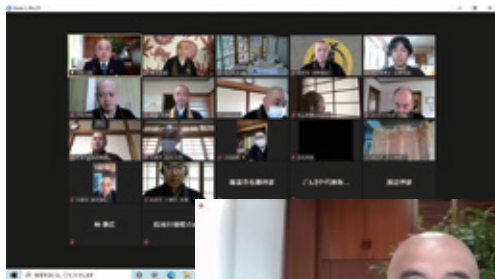
釈尊の時代といま私たちが生きる現代社会、このコロナ禍を比較しながら、初期仏典にみえる釈尊の言葉を通じて、自分たちが今どうすべきかと考えさせられるとても有意義な時間となり、その他、質疑応答にも快く応じていただき、参加いただいた正会員・特別会員の皆様にも大変示唆に富んだ講演会となりました。

また、オンライン大般若祈祷法要は感染拡大防止の観点から、YOUTUBEを活用し正会員・特別会員の皆様に配信公開させていただきました。事業当日に至ってのコロナ感染状況が予想することがむずかしい為、事前に役員のみで大般若祈祷法要を務めさせていただき、撮影・編集のち令和三年一月二十七日～二月二十四日の期間限定による公開といたしました。日頃よりご協力をいただいている特別会員各社の社運隆昌、諸願成就を祈願し、会員皆様の無病息災をご祈念申し上げ、祈祷札を特別会員の皆様に配送をさせていただきました。

オンラインを用いるなど初めての試み

ではありましたが反省点などもあり、また一方では現下の状況で自分たちが成すべきこと、できることを明確にできたのではないかと考えております。例年通り

皆様と集っての開催がかなう日を心待ちにするとともに、新型コロナウイルス禍が早期終息すること願ってやみません。



東日本大震災 3.11 慰霊行脚

東日本大震災より九十年を迎えた今年。被災各地域では鎮魂の祈りが捧げられました。

新型コロナウイルスの流行とその対策により移動や集会に制限が課せられる中ではありましたが、私たち青年会も含めてあの日の悲劇と深い哀しみへの追悼、その後の辛苦を耐え、忍び、時に支えあってきた道のりの日々への追憶が已むことはありません。この日、皆それぞれに思いを抱く中、「3・11」を迎えました。

石巻（大川地区）

未曾有の東日本大震災から九十年の節目を迎える令和三年三月十一日、昨今の新型コロナウィルス感染拡大防止を考慮し、当会として残念至極ではありましたが、昨年同様に規模縮小の若干名にて海蔵庵本院様、龍谷院様、釜谷霊園、観音寺様、旧大川小までの慰霊行脚を行いました。

海蔵庵様の別院にて諷経のち、長面湾に面する本院様から行脚を開始しました。

行脚修行道中、周りを見渡せば、復興事業の進行によって変貌した光景から経過した十年の歳月の重さを感じます。しかしながら復興により変わる風景の中

で変わらぬだろう山並みの姿との対比、今もなお残る災害の爪痕に、改めて震災の惨さに思いを致さざるを得ませんでした。

震災遺構としての整備が進められている旧大川小学校では、遺族会の方々による慰霊法要も中止せざるを得ない本年、それでも多くの方々が集まっておられました。午後二時四十六分のサイレンが吹鳴されると皆様立ち止まり、黙祷、手を合わせていらっしやいました。その姿を見るとあの日、あの時、あの場面、あの場所で行った東日本大震災の悲しさ、辛さがどんなに歳月を重ねど、どんなに風景が変われど、それぞれの想い、祈



海蔵庵別院にて



海蔵庵本院にて



龍谷院にて





観音寺にて



釜谷霊園にて

気仙沼

震災から十年となる令和三年三月十一日、気仙沼市本吉町小泉地区清泉寺御住職 丸谷清人老師より当会へご要請を頂戴し、慰霊行脚と法要を務めさせて頂きました。

コロナ禍ということもあり、感染予防に最大限配慮するため参加人数を抑えての行脚と法要随喜とさせて頂きました。出発地点の蔵内漁港にての諷経には、近隣にお住いの方々がご参集くださいました。また、道中にてもお手合わせくださる方もおられ、鎮魂の思いで行脚を続ける最中ではありましたが、今日という日の意味を噛みしめておりました。

集合した清泉寺様は谷地の峰の中腹、集落でも海から少し離れた小高い場所にございます。が、寺様より「ここまで津波があがったのよ。」と、庫裡玄関に貼っている背丈ほどの高さのしるしを示され、改めて三陸一帯を襲った津波の激甚さを感じざるを得ませんでした。また、行脚を行うにあたってご協力くださった地域の方々からは、道中目にする震災の痕跡や新しくできたあまりに巨大な堤防の事など目に映る風景への複

雑な思い、被災の辛い記憶、そして思い出に残る故郷への旧懐を私たちにお話しいただきました。

もちろんのことですが地域によつては状況も異なる為、復興について一概には言えないのかもしれない。しかし法要に参列しご焼香される皆様のお姿と、御住職と話を交わす光景からは、現地の皆様のお話に耳を傾けその時その場所にあった支援活動を長く継続していくことが肝心なのではないかとの思いをいたし、改めて学ばせていただいたように思います。

お声がけくださいました清泉寺様、行脚・法要にご参加いただきました皆様に御礼申し上げます、ご報告と致します。



蔵内漁港にて



新小泉大橋から海を臨み諷経





清泉寺御住職 丸谷清人老師



清泉寺境内から海・堤防を臨み諷經



奈良中宮寺御門跡 閑上慰霊法要帯同

令和二年十一月十日（火） 名取市閑上地区の東日本大震災慰霊記念碑におきまして、奈良中宮寺・日野西光尊御門跡様による慰霊勤行に帯同をさせて頂きました。

宮城県美術館にて開催された「東日本大震災復興祈念 奈良・中宮寺の国宝展」（既に展示期間終了）の機縁により、御門跡が閑上地区の慰霊をご希望され、私達宮曹青に帯同のお声がけがありました。

当日の天候は晴れていたものの終止寒風が吹く中、慰霊碑に刻まれた方々のお名前をじっくりと見つめお手を合わせる姿と、お読み上げになられた表白文には哀悼の想いと復興への祈りが込められておりました。

法要に就きまして一緒に礼拝し、懺悔文、般若心経、光明真言を唱和いたしました。

貴重な機会を下さいました石巻市桃生 林昌院の佐藤知妙老師をはじめ、取材などご帯同の皆さま方にも、ご一緒する機会を得ましたこと有難く存じます。感謝申し上げます。

宮曹青主管 カンボジア教育支援活動 サンタピアップみやぎボランティア会

「ハガキリサイクルキャンペーン」中間報告

この一年間で皆様に収集頂いた書き損じハガキと切手の集計作業を行いました。

(今年度新型コロナウイルス感染症拡大の影響を懸念し、未だ大々的なキャンペーンは見合わせており、三月十五日現在事務局まで届いているハガキを集計した数となります。)

全国の御支援者様より沢山のご提供を頂き誠に有難うございます。

- 日 時：令和三年三月十五日
- 会 場：サンタピアップ事務局
- 集計作業：参加五名(事務局員のみ)

「集計結果」

書き損じはがき 合計六、四五四枚
切手 額面換算 合計八万二、九八三円

皆様からお寄せ頂いた書き損じハガキや切手は、新しいハガキや切手に変えて 県内御寺院様や団体企業様にご購入頂き、その売り上げをカンボジア教育支援費として活用させて頂いております。



オリジナル卓上カレンダー

2021販売報告

今年度もオリジナルカレンダーを作成・販売致しました。

お陰様でたくさんのご注文を頂き、予定の制作部数を既に完売いたしましたことをご報告申し上げます。各事業収益と共に教育支援費として活用させて頂きます。

「カレンダー制作販売数」

二、〇〇〇部 (一部 三〇〇部)
売上合計 六〇〇、〇〇〇円

一枚のハガキや切手が支えます

■書き損じハガキの送り先

〒984-0051

仙台市若林区新寺2-2-11 (新寺211ビル1階)
仙台新寺郵便局留「サンタピアップ」宛

■支援金の送り先

郵便振替口座

名義 サンタピアップみやぎボランティア会

口座番号 0229016148744

■サンタピアップ事務局

〒984-0051

仙台市若林区新寺3-7-1 光寿院内

TEL: 080 (3144) 3020 (専用)

FAX: 022 (292) 1277

E-mail: info@santapi.com

ホームページ: <http://www.santapi.com/>

事務局長 阿部 真龍



年次総会報告

令和二年十二月十八日（金） 仙台市清涼寺様にて、第二十六期宮曹青の令和二年度年次総会を行いました。開催にあたっては、はがきによる議決権の行使や、来場者のマスク着用や手指消毒の徹底などを呼びかけ、会場も換気を図り、「密」を避けるなどの配慮する中で行われました。

議長には第四教区 法雲寺 井上寛尚師が選任されました。審議事項として、一般の理事会にて承認された「第二十七期三役人事案」について、神作会長より第二十七期会長を第十四教区大慈寺高橋信弘師とする案が上程され、審議の結果、高橋師が選任されました。

その後、高橋師より副会長三名と監事三名の人事案が上程され、同じく審議の結果承認をされました。



第二十七期 宮城県曹洞宗青年会二役

会長	副会長	全	全	監事	全	全
高橋 信弘 師 大慈寺（第十四教区）	牧野 隆信 師 高林寺（第四教区）	渡邊 桂堂 師 天性寺（第九教区）	千田 祥幹 師 洞雲寺（第二十一教区）	小枝 誠智 師 國分尼寺（第二教区）	吉田 亮頭 師 林昌院（第十四教区）	酒井 禅悦 師 清水寺（金秀寺副住職・第十五教区）



※来期の会長を中心に新三役の皆さま
（撮影の為マスクを一旦外して頂きました）

事務局だより／今後の予定

◎宮曹青

令和三年度定例総会

宮城県・仙台市共同の「緊急事態宣言」発出されたことを考慮し資料郵送・はがきによる書面決議に開催方式を変更

※合同委員会については後日各委員会単位にて開催

◎全日本仏教青年会

四月二十六日（月） 仏法興隆花まつり千僧法要

於、奈良県東大寺

◎全国曹洞宗青年会

五月十一日～十二日 中央研修会・定期総会

於、東京グランドホテル

※現地、オンライン併催予定

編集後記

宮曹青の設立から五十年の節目を過ぎ、新たなスタートを迎えた第二十六期の委員長として二年間の任期を務めさせて頂きました。期を同じくして年号も変わりましたが、近年の災害多発傾向は変わらず、令和元年台風被害があり、さらに新型コロナウイルスによる活動の制約が今もって続いております。それでも皆様のご理解とお世話を頂戴することで、何とか広報の職務が務められたものと存じております。ご縁を頂きました皆様、ありがとうございました。



表紙写真 東日本大震災慰霊行脚
10年の歳月



無聖 第82号（令和3年3月31日発行）

表紙題字 宗務所長 三田村道雄 老師
編集 宮城県曹洞宗青年会
発行人 神作 紹道
事務局 宮城県岩沼市早股字
寺北182 高林寺内
TEL 090-2849-3830（専用）
FAX 0223-29-4132
URL <http://miya-sousei.com>
E-mail info@miya-sousei.com